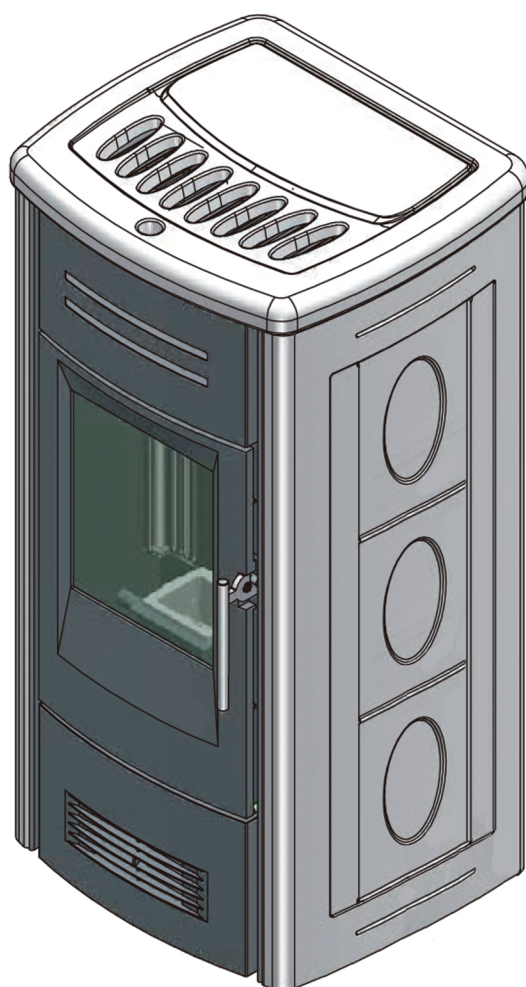




PELLET STOVE / P958

取扱説明書



はじめに

PIAZZETTA/P958をご購入頂きありがとうございます。

ペレットストーブは、電源を使用する精密機器です。取扱いに関してこの説明書をよく読み、適切にご使用いただくことでより長くペレットストーブライフを楽しむことができます。

この説明書には、注意事項・操作・メンテナンスなど、今後ご使用いただくために必要なことが記載されていますので、紛失しないよう大切に保管してください。

目次

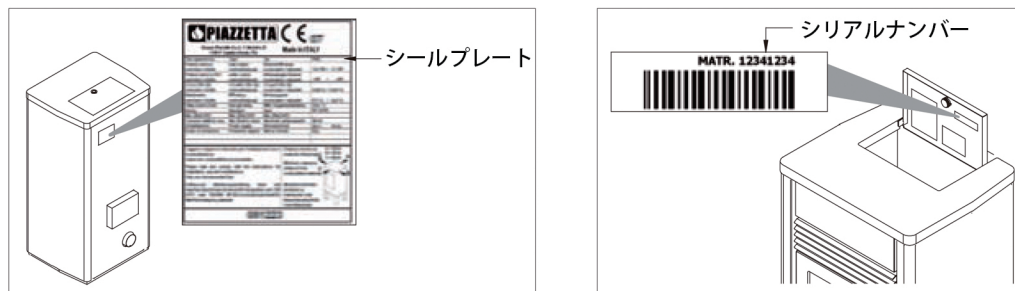
1	<目次>	15	【CHIRONO】タイマーの設定
	はじめに	16	【MULTI COMFORT】室温感知センサーの選択
	目次		【STATE】ストーブの状態の確認
2	<概要>		【BEEP】受信音の設定
	概要	17	【ENERGY SAVING】エナジーセービングの設定
	製品の識別データ	18	<トラブルシューティング>
	仕様		【エラー：E1】排煙センサーの異常
3	寸法図		【エラー：E2】プレッシャースイッチの異常
	離隔距離		【エラー：E3】ペレットタンク温度の異常
	付属品・装飾品		【エラー：E4】排煙温度の異常
4	<燃料>	19	【エラー：E6】オーガ（スクリュウ）の不具合
	燃料と品質		【エラー：E7】排煙温度が低すぎる
5	<設置>		【エラー：E8】排煙温度センサーの接続不良
	マルチフォーコシステム		【エラー：E9】着火不良
	電気系統の接続	20	【エラー：E10】室温センサーの接続不良
6	<注意事項>		【エラー：E12】電気系統の接続不良
	運転する際の注意		【エラー：E13】タンクの蓋が閉まっていない
	ペレット補給時の注意		【エラー：E14】着火不良
	はじめての着火（試し焚き）	21	【エラー：E19】その他接触・接続不良
7	<リモコンの操作>		【WAIT COOLING】ストーブを冷やす
	リモコンの操作		【EMPTY BRAZIER】炉内の清掃
	コントロールパネルの操作		【SERVICE】メンテナンスの警告
8	リモコンの表示・マーク		リモコンにカギのマークが表示される
	リモコンのシンプル操作モードの設定	22	リモコンに「S」と表示され、メニュー画面に入れない
	混線防止のためのリモコンとストーブの同期設定		リモコンの室温表示の背景が黒くなっている
	リモコンの通信不良		【CLEANING GRATE】と表示されている
9	<安全管理と制御>		【LOW FUEL】と表示されている
	エラーコード一覧		【PELLET DEPLETED】と表示されている
	排煙温度の低下による自動制御		【POWER FAILURE】と表示されている
	事故防止のためストーブが自動停止する限界温度	23	<メンテナンス>
10	<ストーブの運転>		メンテナンスの重要性
	運転スタート		炉内の掃除
	室温を変更する		月に1度の掃除
	出力（火力）を変更する	24	3ヶ月に1度の掃除
	ストーブの自動クリーニング		1年に1度の掃除
	ペレットの残量表示		リモコンのバッテリー交換
11	ストーブの停止と再スタート	25	灰受け皿の掃除
12	運転中の停電によるシャットダウン		外装パネルの掃除
13	<メニューの操作>		エナメル金属パーツの掃除
	メニュー画面一覧		ドアガラスの掃除
14	<ストーブの運転>		ドアガラスの交換
	【MULTIFUOCO】送風ファンの速度設定	26	ヒューズの交換
	【LANGUAGE】言語の設定		シーズン終了時の掃除
	【CLOCK】時刻の設定		シーズン前の準備
	【FILL AUGER】オーガにペレットを絡ませる		

概要

- 外装 : ハンドメイドのマジョルカ焼きタイル (セラミック)
- 本体・加湿部 : スチール (鋼板)
- バッフル (炉・周辺部品) : 鋳鉄
- ドア : 鋳鉄 (750℃耐熱セラミックガラス付き)
- ハンドル : スチール (鋼板)
- 出力設定 : 4段階
- ファン設定 : 4段階
- 灰受け皿 : スチール (鋼板) ※引き出し式 (取り外し可)
- 使用燃料 : 木質ペレット (EN基準推奨)
- 温風 : マルチフォーコシステム (特許取得済み) 搭載で、リモコンによる室温設定が可能。足元からの温風で効率良く部屋を暖めます。
- コントロールパネル : LCD付きリモコン ※室温感知センサー付き
- タイマー機能 : 日・週・週末ごとに各2パターンの設定が可能

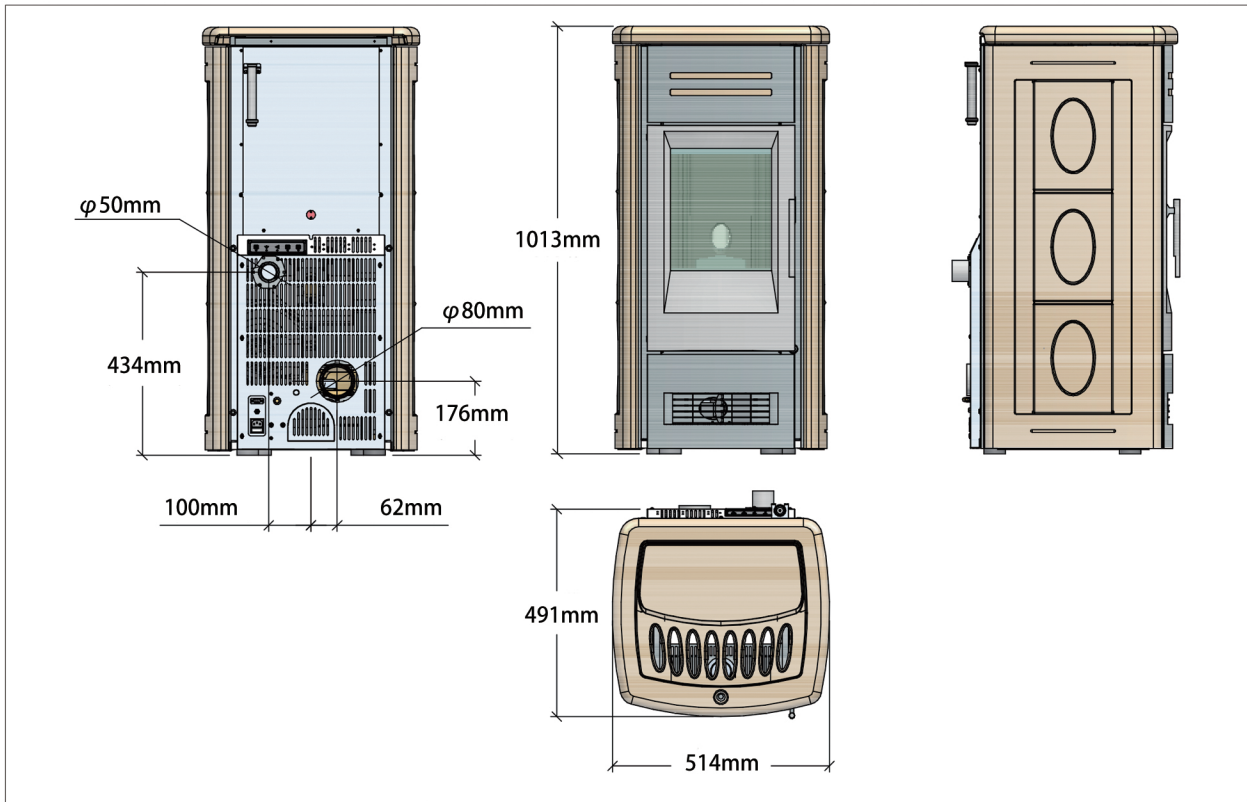
製品の識別データ

それぞれの製品には商品データや詳細が記載されたシールプレート、シリアルNoを示すバーコードが貼付されています。これらのシールやバーコードはメンテナンスや個体識別の照合の際に必要となりますので、剥がさないで下さい。



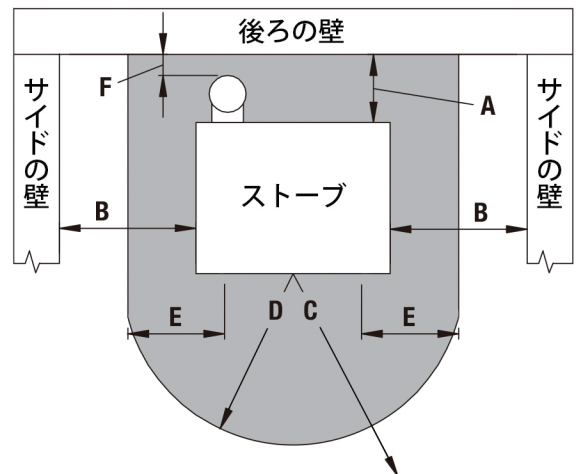
仕様

項目	単位	P958	
		最大運転時	最小運転時
暖房能力	kW	8.6	2.7
1時間あたりの燃焼消費量	kg/h	1.4	0.6
暖房効率	%	91.4	90.2
排煙に含まれる煤 (すす)	mg/Nm ³	-	
重量 (外装含む)	kg	148	
最大電力 (着火時)	W	320	
通常使用電力	W	85	
電圧	V	120	
周波数	Hz	50/60	
ペレットタンク容量	kg / (l)	16 / (35)	
煙突径	cm	φ80	
最小ドラフト	Pa	-	
煙突内の平均排煙温度	°C	-	-

寸法図

離隔距離

ストーブの重量を確認の上、必要な際は床に補強を行なったうえで設置してください。

A	ストーブ背面と可燃壁の離隔	20cm
B	ストーブサイドと横壁との離隔	20cm
C	ストーブ前方の可燃物との距離	80cm
D	ストーブ前方のフロアプレートの長さ	50cm
E	炉からフロアプレート横の必要長さ	30cm
F	煙突表面と可燃壁の離隔	5cm


付属品・装備品

- ルームセンサー（本体・リモコンに内臓）
- グレートプレート
- GRFリモコン
- 電源ケーブル
- エアーフラップ操作ハンドル

燃料と品質

このストーブは木質ペレットのみ燃やすことを想定して設計されています。木質ペレットは天然木や廃材、おが屑を圧縮して造られる燃料です。原材料を圧縮する段階で生じるリグニンという天然の物質により粘着性が増えるため、糊や接着剤を使用することなくペレットを成形することができます。

市場には使用木材のタイプや加工方法の違いによって様々なペレットの種類がありますが、ペレットの性質や品質はストーブの機能性・効率・正しい運転に大きな影響を与えますので、ご使用の際はより高品質なペレットを使用することをおすすめします。

「ペレットストーブの不具合は、7割以上が燃料であるペレットに起因するといわれています。」

※ペレットを変更するだけで不具合が解決する場合も多いため、不具合の頻度が気になる際は、まずペレットを変更して様子を見ることが大切です。

<ヨーロッパ製ペレット>

EN規格に適合したものを使用してください。

<日本製ペレット>

日本でもヨーロッパのEN規格に準じたペレット製造が行なわれていますが、現時点では自主規制のため厳格に品質が維持されていないケースも見受けられます。日本製ペレットをご使用の際は、EN規格に準じたものをご使用ください。特に含水率と圧縮密度は大きな影響を与えるため、注意が必要です。

圧縮密度が低いペレットを使用すると…

ペレットを保管する袋に粉が溜まりやすく、また、タンク内でペレットが砕け、粉がスクリューに詰まりやすく、頻繁なメンテナンスが必要になります。また、粉が導火線の役割となり、炉内の火がスクリューをさかのぼってタンクに引火する「逆火」の原因にも繋がります。

含水率が高いペレットを使用すると…

着火しにくく、スタート時に着火エラーで運転がスタートしにくい状態となります。また、湿気ているため燃焼効率が低く、ガラスも煤けて見えにくく、黒煙が発生しやすくなります。ファンや煙突内に煤が溜まりやすくなるためメンテナンスの頻度も高くなります。

◆PIAZZETTA社推奨ペレット

原木	天然木
長さ	10~30mm
直径	6~6.5mm
圧縮密度	650kg/m ³
重量	1.0kg/dm ³ 以下
熱量	5kWh/kg
含水率	8%以下
灰分量	0.5%以下

◆ペレットの種類

種類	ホワイトペレット	全木ペレット	バークペレット
使用部位	樹皮以外の芯材	樹皮を含めた全て	樹皮のみ
灰の量	少ない	普通	多い
クリンカー	少ない	普通	多い
メンテナンス頻度	少ない	普通	多い

◆ペレットの品質

種類	硬いペレット	柔らかいペレット	含水率が高いペレット
表面	ツヤあり・ヒビ割れなし	ツヤなし・ヒビ割れあり	ツヤあり・モコモコしている
火持ち	非常に良い	良い	良くない
燃焼効率	非常に良い	良い	良くない
着火性	非常に良い	良い	良くない
崩れやすさ	崩れにくい	普通	崩れやすい
メンテナンス頻度	少ない	普通	多い

※良品のペレットを使用した場合でも、メーカーが定める定期的なメンテナンスは必要です。また、ペレットの品質によりメンテナンスの頻度は変わりますので、ペレットを変更した際は十分ご注意ください。

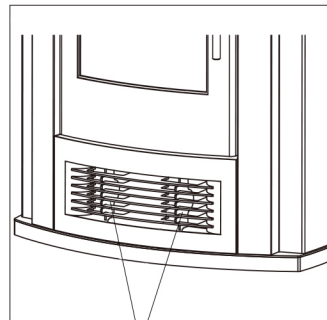
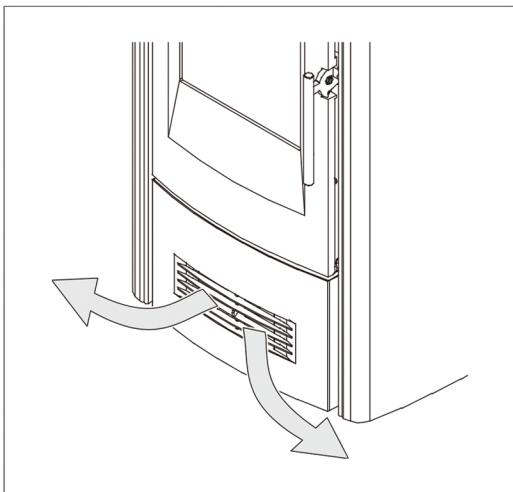
マルチフォーコシステム

長年の研究とテクノロジーの蓄積によって開発されたマルチフォーコシステムは、ピアツェッタ社が特許を持つ新しい機能です。

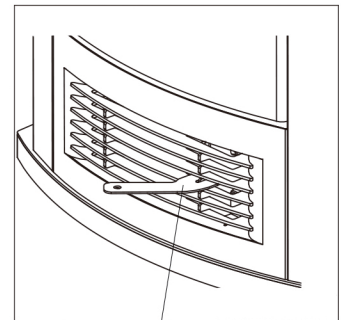
炉内で生じる熱を足元付近から吹き出すことで、温風を部屋じゅうにまんべんなく行き渡らせることができます。



温風の吹き出し口は本体正面下部にあります。ディフレクターが2ヶ所装備されているため、風向きを変えることができます。エアフラップハンドルを使い、それぞれ任意の方向に向きを調整してください。



ディフレクター



エアフラップハンドル

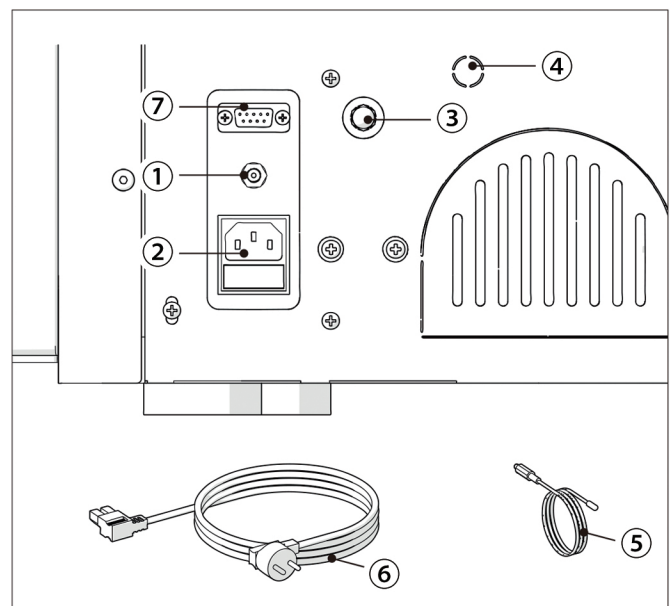
電気系統の接続

- ① ルームセンサー取り付けジャック
- ② 電源ケーブル接続部
- ③ 差圧計接続部
- ④ 外部温度計接続部
- ⑤ ルームセンサー接続部
- ⑥ 電源ケーブル
- ⑦ DB9ソケット

電源ケーブル (⑥) は変圧器を使用し、室内のコンセントに接続してください。変圧器の容量は1000Vが推奨です。容量が低すぎると運転時に支障をきたす恐れがあるため、十分に注意してください。

設置の際はアースを付け、ケーブルが本体の熱くなる部分に触れないよう余分な長さの部分は図のように巻いて収納して下さい。

DB9ソケット (⑦) はメーカーや販売店が各種設定を行なう際に使用します。



運転する際の注意

- ストーブをクッキングの道具として使用しないで下さい。
- ストーブを使用する部屋は、定期的に十分な換気を行なって下さい。
- 定期的に煙突の状態を確認し、必要な際はメンテナンスを行なって下さい。
- 木質ペレット以外の燃料は使用しないで下さい。
- ストーブを再スタートする際は、必ず炉内に残ったペレットを掃除してから行なって下さい。
- 運転中はストーブ本体（特にドア・ハンドル・温風吹き出し口など）が熱くなりますので、火傷などに十分注意して下さい。
- ストーブの近く（特に正面から80cm以内）には、可燃性のものを置いたり、近づけたりしないでください。
- ドアは常に閉めた状態で運転し、運転中はドアを開けないで下さい。
- ガラスは傷や割れのない状態で使用してください。
- ペレットタンクの保護用格子アミは絶対に外さないで下さい。
- 運転中にペレットを補給する場合は、ペレットの袋がストーブ本体に触れないよう十分注意して下さい。

ペレット補給時の注意

タンクにペレットを補給する際は、ペレットの袋の端を切り、タンクに流し込むように入れます。袋内にあるペレット屑は詰まりの原因となるためタンク内へ入れないよう十分注意してください。ペレット補給時は、タンクから溢れ出ないように注意して下さい。



はじめての着火（試し焚き）

着火の前に、各部品がきちんと所定の位置に収まっているか確認して下さい。

ストーブにはじめて着火する際は、製造時に工場に塗布された内部のオイルやペイントが焼けて蒸発する際に臭いが発生することがあります。無毒ですが、部屋の換気を十分行なって下さい、数回焚くと臭いはおさまります。

- ① 着火後5～6時間は慣らし運転として出力を低～中に抑えてください。本体の鉄は熱により伸縮するため、火に慣らす必要があります。
- ② 慣らし運転が終了したら、6～10時間は出力を最大で焚いて下さい。塗料が定着します。

※②の最大出力での運転は、6～10時間の連続運転でなくとも構いません。分割して運転する際は、3～4時間の運転を2回行なってください。

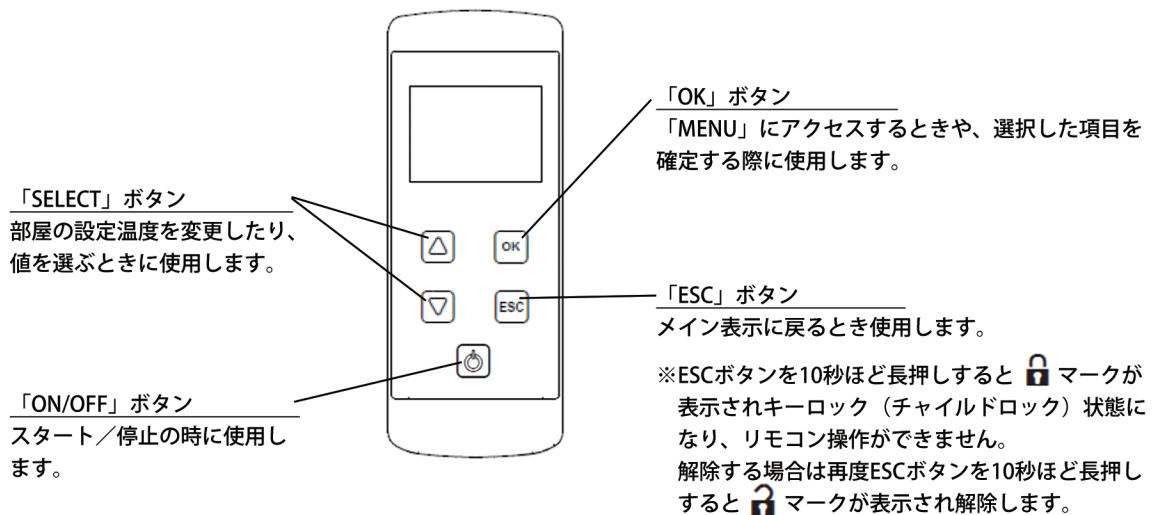
はじめて運転する際や使用中にペレットタンクが空になってしまった場合などスクリーンにペレットが絡んでいない状態です。スクリーンにペレットが絡むまで15～30分程時間がかかります。この間は炉内にペレットが供給されることはありません。

また、スクリーンへの送り込みが完了し着火の準備に入っても、運転スタート時は着火装置付近にペレットが届かず着火不良でエラーを起こすことがあります。その場合はドアを開け、直接炉内へペレットを足して下さい。

着火エラーで警告音が出る場合は、「電源」ボタンを押してストーブを停止し、エラーの項目に従って炉内のペレットをきれいに掃除してから再スタートして下さい。

リモコンの操作

PIAZZETTAのストーブはラジオ周波数を使用し信号を送るGRFリモコンを使用しており、運転やプログラムに関する様々な機能をリモコンで操作することができます。混線などでリモコンが反応しない場合は、一度ストーブの近くでリモコンを操作すると改善されます。周囲で周波数868MHzの電波が使用されている場合、リモコンの操作可能範囲が限られてしまうことがありますのでご注意ください。リモコンは機器の電源（コンセント）を接続している時のみ、操作することができます。

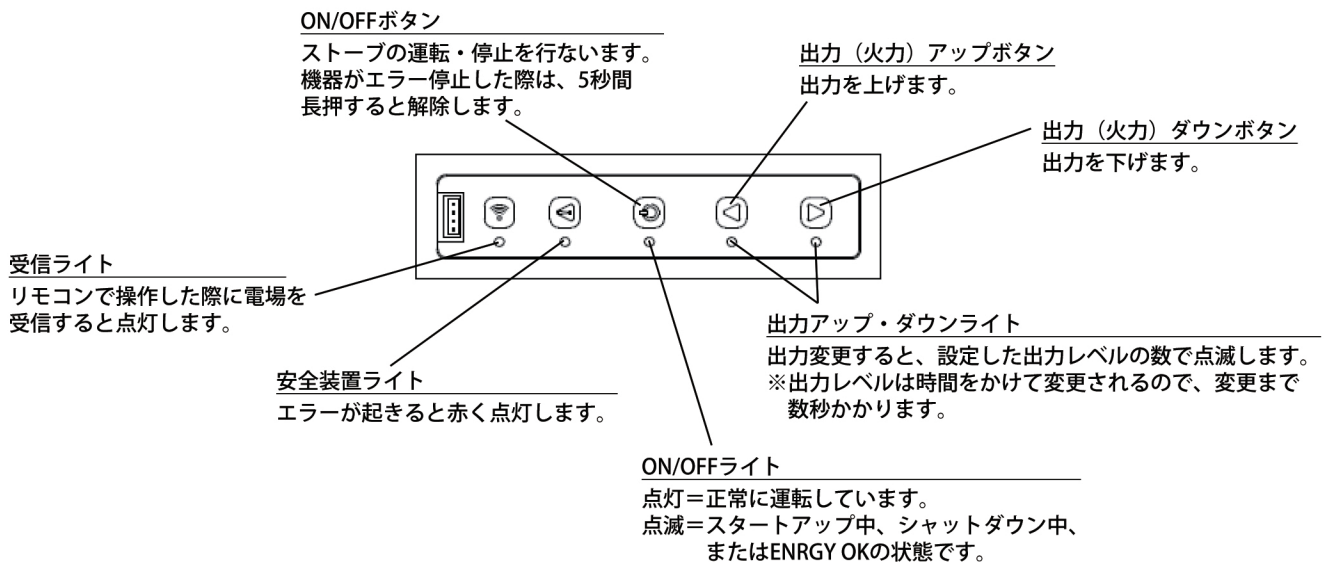


コントロールパネルの操作

コントロールパネルは本体背面に設置されており、リモコンで操作できない緊急の場合に使用します。
※コントロールパネルは緊急用のため、使用できる操作が限られています。普段の操作は必ずリモコンで行なってください。

◆2ヶ所のライトが点灯している場合
機器は「OFF」状態ですが、通信を受けられる状態を意味します。

◆全てのライトが赤く点灯している場合
機器がエラー停止している状態です。「EMPTY GRATE」の項目に従って操作してください。



リモコンの表示・マーク

現在の時刻を表示します。

現在の日にちを表示します。

メッセージや警告を表示します。

現在の室温を表示します。

この表示が出ているときは操作ができません。

タイマーが有効の時に表示します。

リモコンが電池切れの時に表示します。

現在の出力を表示します。

現在の風量を表示します。
※送風ファンが2つある機種は、左右にそれぞれの値が表示されます。

安全装置が起動した場合のエラーコードを表示します。

リモコンのシンプル操作モードの設定

「ESC」と「電源」ボタンを同時に10秒以上長押しすると、シンプル操作モードになりディスプレイに「S」が表示され、以下の内容以外は操作できなくなります。

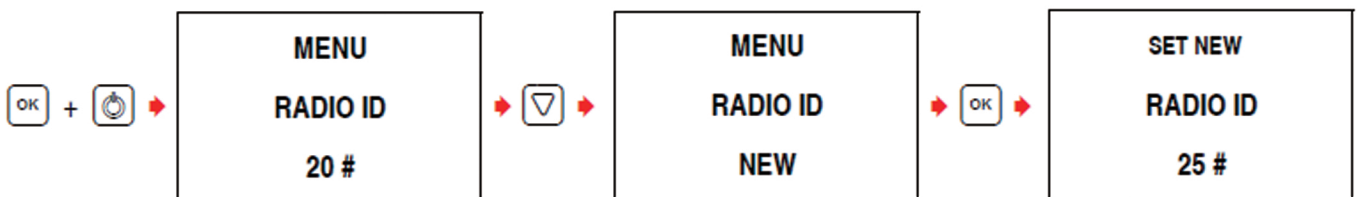
※解除する場合は、再度「ESC」と「電源」ボタンを同時に10秒以上長押しすると解除され、ディスプレイの「S」表示が消えます。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 「電源」ボタン：運転スタート・停止 | 「OK」ボタン：値を確定 |
| 「▲」ボタン：出力を上げる | 「ESC」ボタン：メイン画面に戻る |
| 「▼」ボタン：出力を下げる | |

混線防止のためのリモコンとストーブの同期設定

同じ空間でストーブを複数台使用する場合、リモコンの電波が混線し操作がスムーズに行えないことがあります。その場合は、リモコンとストーブ本体を1台ずつ同期設定し専用リモコンとすることで、混線せずスムーズに操作できます。

- ① 「OK」ボタンと「電源」ボタンを同時に5秒ほど長押しします。
- ② 「MENU RADIO ID」が表示されたら、「▼」ボタンを押して「NEW」を選択し「OK」ボタンを押します。
- ③ 「▲」「▼」ボタンで新しいユニットを選択します。
- ④ ストーブの電源コードを抜きます。
- ⑤ ストーブの電源コードを差し込み、「OK」ボタンを押します。



リモコンの通信不良

電池切れなどで、本体とリモコンの通信が2分以上遮断されると、室温の計測はストーブ本体が行ないます。「MULTI COMFORT」でリモコンでの計測を選択している場合は、接続が復活すると室温の計測はリモコンに切り替わります。

エラーコード一覧

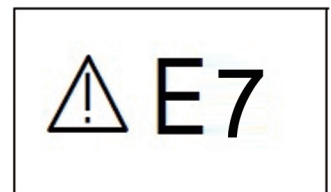
PIAZZETTAのストーブは、人・動物・モノ・ストーブ本体への損傷を未然に防ぐため、様々な安全装置を備え、E（エラー）表示で知らせるようになっています。

E1/SAFETY SMOKE	排煙室の低圧による不具合警告
E2/NO DEPR	プレッシャー（負圧）スイッチの異常
E3/THERMAL SAFETY	ペレットタンクの異常高温
E4/MASS TEMP	ストーブの異常高温
E6/AUGER SAFETY	オーガの異常
E7/UNPROGRAMMED STOP	運転時のストーブの異常低温（68℃以下）
E8/SMOKE TEMPERATURE PROBE	排煙温度センサーの未接続・遮断・異常
E9/NO LIT	着火不良
E10/ROOM TEMPERATURE PROBE	室温感知センサーの遮断・不具合
E12/ENCODER	エンコーダーの遮断・不具合
E13/TANK LID OPEN	タンクの蓋が閉まっていない
E14/START FAILURE	スタートフェーズ後35分以内に排煙温度が68℃に達していない
E19/NPELL	接触不良

排煙温度の低下による自動制御

通常運転中、センサーが異常低温を感知するとディスプレイに「E7」が表示され、ストーブがシャットダウンフェーズに入ります。「ストーブの停止と再スタート」の項目を参照して下さい。

※ストーブ使用中にペレットタンクの残量が少なくなり、出力が下がって排煙温度が下がる場合もこの表示が出ます。



事故防止のためストーブが自動停止する限界温度

ペレットストーブは排煙温度をベースにプログラムが組まれ、常にストーブを管理・制御しています。事故を防止するため、ストーブは3段階に分けて自動制御を行ないます。

第一段階 送風ファンの自動制御

送風ファンの自動制御が働く排煙温度の限界値をプログラムで管理しています。最大出力（火力）の状態では排煙温度がプログラム上の規定値を越えた場合、ディスプレイに「MAX VENT」が表示され、送風ファンは強制的に最大速度で稼働します。

第二段階 出力の自動制御

出力の自動制御が働く排煙温度の境界値をプログラムで管理しています。排煙温度がプログラム上の規定値を越えた場合、出力は強制的に最小出力に移行し、排煙ファンが最大速度で稼働します。

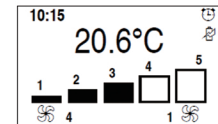
第三段階 ストーブの自動停止

事故を防ぐため、ストーブを強制的に停止させる排煙ファンの限界温度をプログラムで管理しています。排煙温度がプログラム上の規定値を越えた場合、ストーブは強制的にシャットダウンモードに入ります。

運転スタート

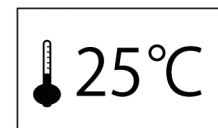
スタートフェーズを開始します。ペレットの供給と着火が自動的に行なわれ、炎が安定すると通常運転に移行します。

- ① ストーブの「電源」ボタンを2秒間長押しすると、ディスプレイに「START」が表示され運転を開始します。
 ※各種センサーが正しく接続されているか自動確認が行なわれ、排煙ファンと自動着火プラグが作動してペレットの供給を開始します。
 ※ペレットが着火しにくい場合は、運転前に炉内の着火プラグ付近にペレットを少量入れておくことで着火しやすくなります。
- ② 炉内温度が68℃以上になると、通常運転画面に移行し送風ファンが作動します。
 (目安時間：運転開始から20分前後)
 ※通常運転画面に移行すると、室温・火力・送風ファンの強さを変更することができます。



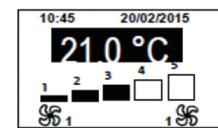
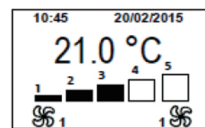
室温を変更する

- ① 「▲」ボタンを押すとディスプレイに現在の設定室温が表示されます。
- ② 「▲」「▼」ボタンで7～30℃の範囲で好みの室温を選択し「OK」ボタンを押すと、設定が完了し通常画面に戻ります。



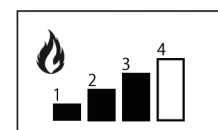
◆設定温度に達した際の表示

ユーザーが設定した室温に達すると、ディスプレイの室温表示が黒背景・白文字の表記に変わります。



出力（火力）を変更する

- ① 「▼」ボタンを押すとディスプレイに現在の出力（火力）が表示されます。
- ② 「▲」「▼」ボタンで好みの出力を選択し「OK」ボタンを押すと、設定が完了し通常画面に戻ります。



ストーブの自動クリーニング

ストーブが通常運転を続けると、一定時間ごとにグレート（燃焼皿）の自動クリーニングを行ないます。クリーニング中はディスプレイに「CLEANING GRATE」と表示され、排煙ファンが最大速度で作動します。クリーニングが終了すると表示が消え、元の運転に戻ります。
 ※自動クリーニング機能はグレートに溜まった細かな灰を取り除く機能です。クリンカーは日々の掃除で取り除いてください。

ペレットの残量表示

ペレットタンク内の残量が少なくなると、ディスプレイに表示されます。タンク内のペレットは全て使い切ってしまうとスクリーンに絡ませるのに時間がかかるため、なるべく使い切らないうちにこまめに補充しましょう。

- 「LOW FUEL」 = ペレット残量が少なくなると表示されます。
- 「PELLET DEPLETED」 = ペレットが全て無くなった場合に表示されます。

ストーブの停止と再スタート

シャットダウンフェーズを開始します。ペレットの供給が止まり、ストーブが冷えるまで排煙ファンが最低8分間稼働し、ストーブが停止します。ストーブが停止したら、グレート内に残っているペレットを取り除き、以下の手順に従ってください。

※スタートフェーズ中に停止した場合、運転開始後すぐに停止すると排煙ファンは作動せずストーブはそのまま運転を停止します。着火後にストーブが停止するとディスプレイに「WAIT COOLING」が表示され、排煙ファンが最大速度で8分間強制的に作動します。8分後、ストーブが冷えているとディスプレイが「OFF」と表示されストーブが完全に停止します。8分間でストーブが冷えない場合はディスプレイに「E7」の警告が表示され、冷えるまで排煙ファンが稼働を続けます。

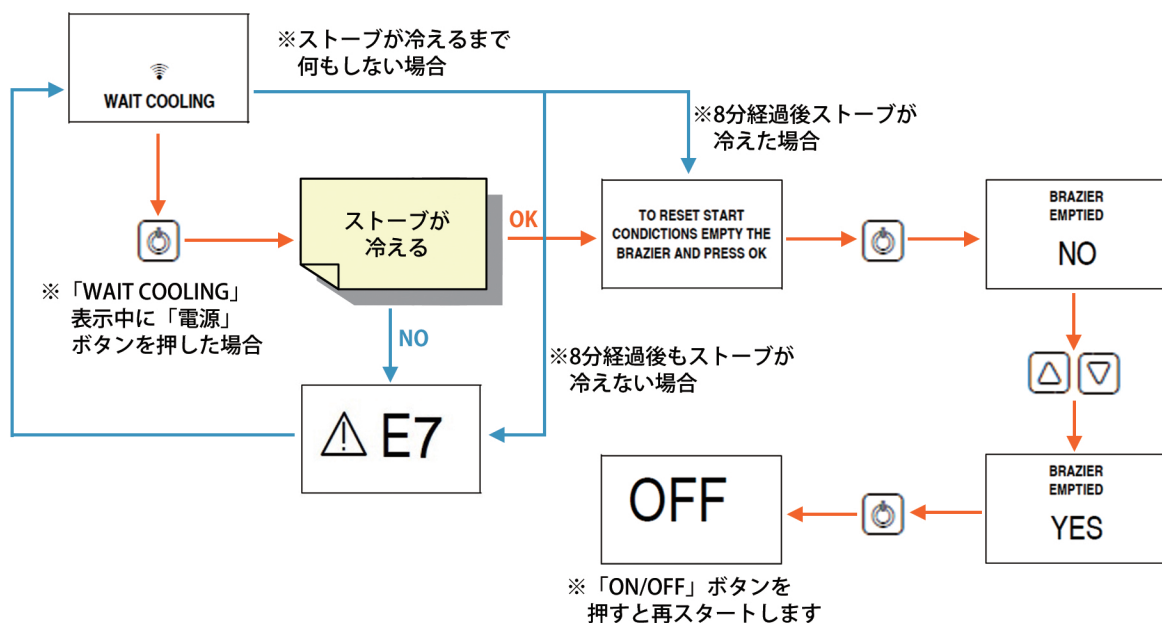
ディスプレイに「WAIT COOLING」が表示されている状態で「電源」ボタンを押すと、その時点でストーブが冷えていれば炉内の掃除までの時間を短縮することができます。

ストーブが冷えていた場合

- ① ディスプレイに「WAIT COOLING」が表示された状態で、排煙ファンが停止するまでの8分を待たずに「電源」ボタンを押します。
- ② ディスプレイは「BRAZIER EMPTIED NO」と表示されます。
- ③ 「▲」「▼」ボタンで「BRAZIER EMPTIED YES」を選択し、「電源」ボタンを押します。
- ④ ディスプレイが「OFF」と表示され、ストーブが再スタート可能となります。

ストーブが冷えていない場合

- ① ディスプレイに「WAIT COOLING」が表示された状態で、排煙ファンが停止するまでの8分を待たずに「電源」ボタンを押します。
- ② ディスプレイは「E7」と表示されアラームが鳴ります。ストーブが冷えるまで排煙ファンが止まりません。



「EMPTY BRAZIER」が表示されている状態でリモコン操作できない場合

- ① ディスプレイが「点滅」します。
- ② 「電源」ボタンを15秒ほど長押しします。
- ③ ディスプレイが「OFF」になり、ディスプレイが「点滅」が「点灯」に変わり再スタートが可能になります。

ペレットタンクが空になり「PELLET DEPLETED」が表示されている状態でリモコンが操作できない場合

- ① ディスプレイが「点滅」します。
- ② ペレットタンクにペレットを補給します。
- ③ 「電源」ボタンを15秒ほど長押しします。
- ④ ディスプレイが「OFF」になり、ディスプレイが「点滅」が「点灯」に変わり再スタートが可能になります。

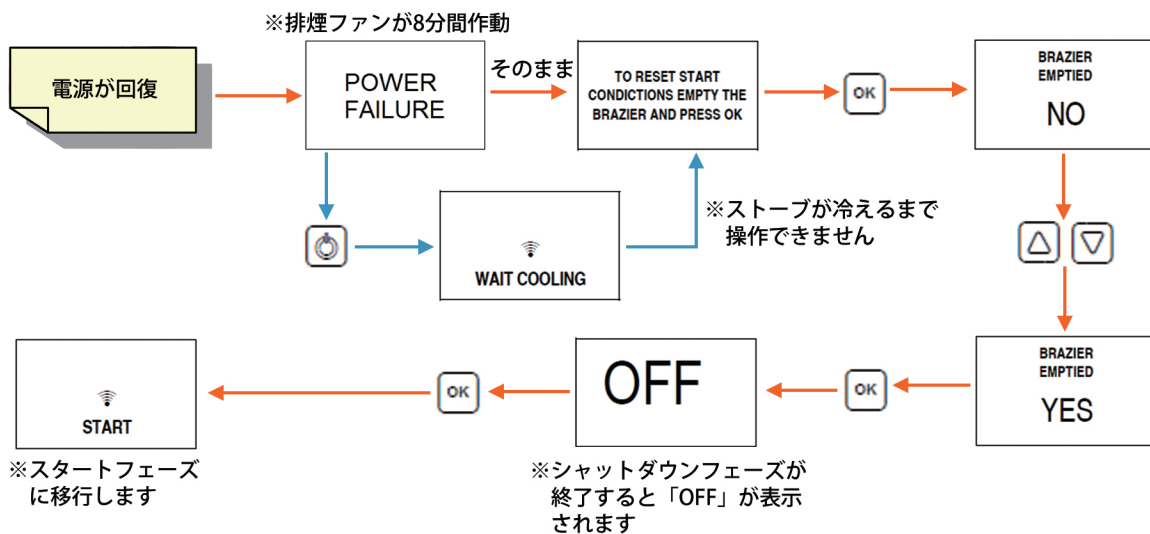
運転中の停電によるシャットダウン

ストーブ運転中に停電／電力遮断が起きた際の対応はその時の状態により対応が異なります。

◆スタートフェーズ中の停電／電力遮断

電力が回復すると、ディスプレイに「POWER FAILURE」が表示され、ストーブはシャットダウンフェーズに入ります。ペレットの供給が止まり排煙ファンが最大速度で8分間作動します。ストーブが停止しディスプレイに「EMPTY BRAZIER」が表示されたら、「電源」ボタンを押して「NO BRAZIER EMPTIED」が表示し、「▲」「▼」ボタンで「YES BRAZIER EMPTIED」を選択し「OK」ボタンを押します。

※排煙ファン作動中に「電源」ボタンを押すとディスプレイに「WAIT COOLING」が表示されますが、ストーブが冷えるまで他の操作はできません。排煙ファンが停止してからの操作は上記と同じです。



◆タイマー設定をしていない状況での停電／電力遮断

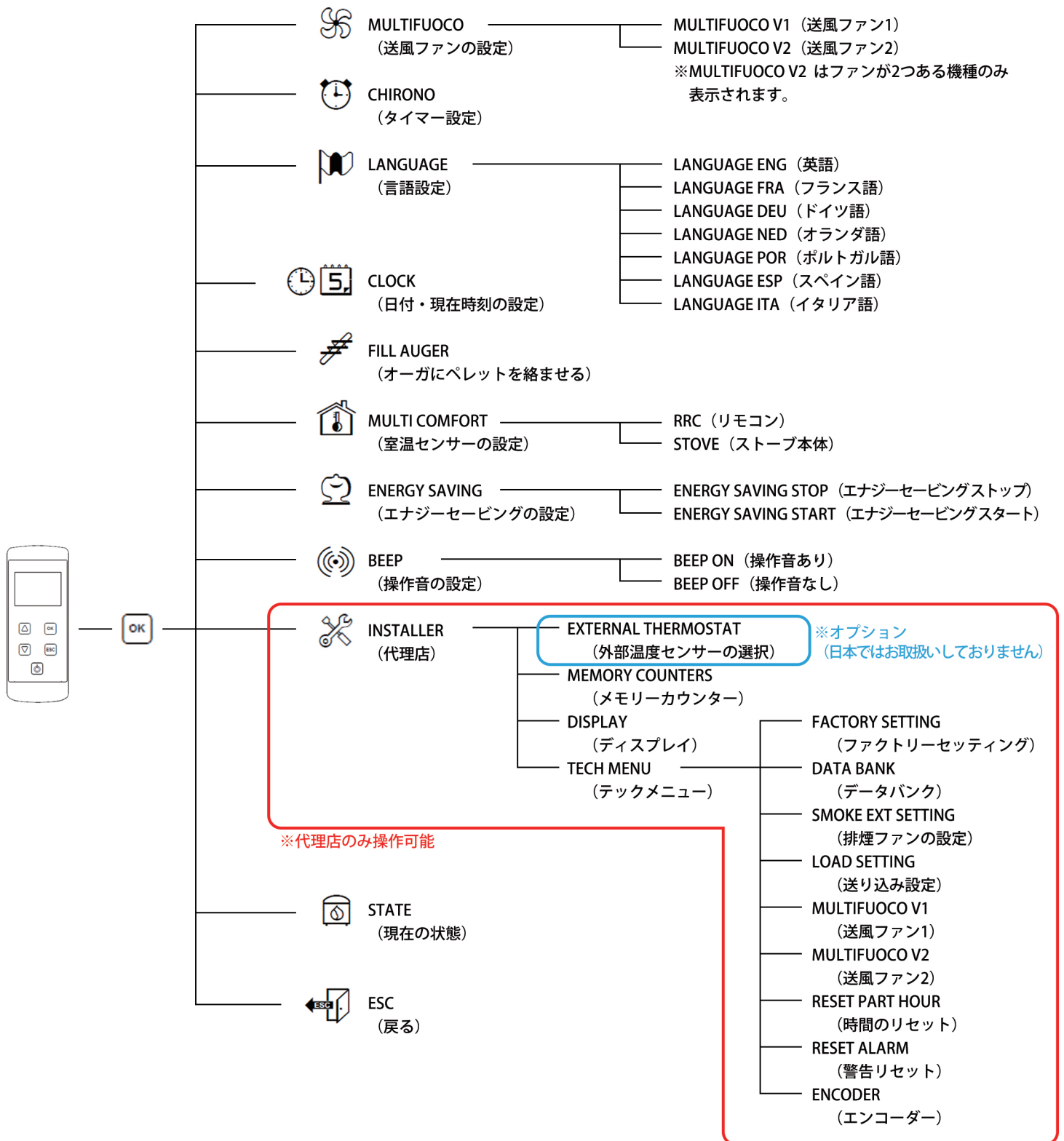
- ・ 30秒以内に電力が復帰した場合
ストーブは以前の設定のまま、通常の運転に戻ります。
- ・ 30秒以上～60秒以内に電力が復帰した場合
ストーブが運転を停止してクールダウンモードに入り、以後、新しい着火サイクルに入ります。
- ・ 30秒以上停止し続けた場合
電力が復帰すると、ストーブはクリーニングフェーズに入ります。ディスプレイは「POWER FAILURE」を表示し、排煙ファンは最大速度で最低8分間作動します。ストーブが冷えると排煙ファンが停止しディスプレイに「EMPTY BRAZIER」が表示されます。

◆タイマー設定をしているときの停電／電力遮断

設定したタイマーは一度キャンセルされ、その時の状況により対応が変わります。

- ・ 運転停止中に停電／電力遮断が起きた場合
タイマー設定はキャンセルとなり、自動着火しません。
- ・ 運転中に停電／電力遮断が起きた場合
タイマー設定はキャンセルとなります。以降は、「タイマー設定をしていない状況での停電／電力遮断」と同様です。
- ・ タイマー設定時に指定した運転時間内で停電／電力遮断が起きた場合
タイマー設定はキャンセルされません。以降は、「タイマー設定をしていない状況での停電／電力遮断」と同様です。

メニュー画面一覧



【MULTIFUOCO】送風ファンの速度設定

送風ファンの速度を設定することができます。

- ① 「OK」 ボタンを押し、「▲」「▼」 ボタンで「MULTIFUOCO」を選択して「OK」 ボタンを押します。
- ② 「▲」「▼」 ボタンで「MULTIFUOCO V1」または「MULTIFUOCO V2」を任意で選択して「OK」 ボタンを押し、速度を決めます。

【LANGUAGE】言語の設定

リモコンに表示される言語を設定します。

- ① 「OK」 ボタンを押し「▲」「▼」 ボタンで「LANGUAGE」を選択し「OK」 ボタンを押します。
- ② 「▲」「▼」 ボタンで任意の言語を選択し「OK」 ボタンを押します。

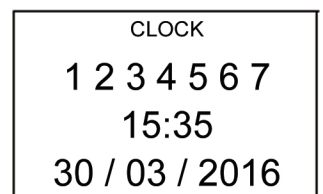
◆選択できる言語

- ・ LANGUAGE ENG = 英語
- ・ LANGUAGE FRA = フランス語
- ・ LANGUAGE DEU = ドイツ語
- ・ LANGUAGE NED = オランダ語
- ・ LANGUAGE POR = ポルトガル語
- ・ LANGUAGE ESP = スペイン語
- ・ LANGUAGE ITA = イタリア語

【CLOCK】時刻の設定

ストーブを初めて運転する際やペレットを完全に使い切ってしまった場合など、スクリーンにペレットが絡んでいない際は運転前にスクリーンへペレットを送り込む（絡ませる）必要があります。

- ① リモコンの「OK」 ボタンを押し、「▲」「▼」 ボタンで「CLOCK」を選択し「OK」 ボタンを押します。
- ② 「▲」「▼」 ボタンで曜日を選択し、「OK」 ボタンを押します。
※1=月曜日 2=火曜日 3=水曜日 4=木曜日 5=金曜日 6=土曜日 7=日曜日
- ③ 「▲」「▼」 ボタンで時間を選択し、「OK」 ボタンを押します。
- ④ 「▲」「▼」 ボタンで日/月/年を選択し、「OK」 ボタンを押します。

**【FILL AUGER】オーガにペレットを絡ませる**

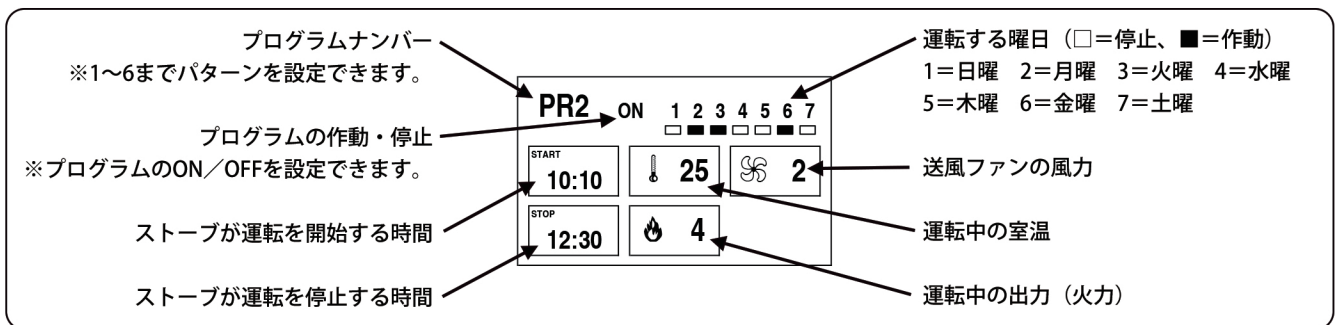
はじめて機器を稼働する場合、オフシーズン明けに機器を稼働する場合など、タンクが空になっている際はオーガ（スクリーン）にもペレットが絡んでおらず、そのまま機器をスタートしても規定時間内に着火できずに着火不良でエラーとなります。そのため、機器をスタートする前に「FILL AUGER」でオーガにペレットを絡ませる必要があります。

- ① リモコンの「OK」 ボタンを押し、「▲」「▼」 ボタンで「AUGER」を選択し「OK」 ボタンを押します。
- ② スクリーンが運転し、ペレットを送り込みを開始します。
- ③ 送り込みが完了すると自動で停止し、元の画面に戻ります。
※送り込み中に「OK」 ボタンを押すと途中で止めることができます。

【CHIRONO】タイマーの設定

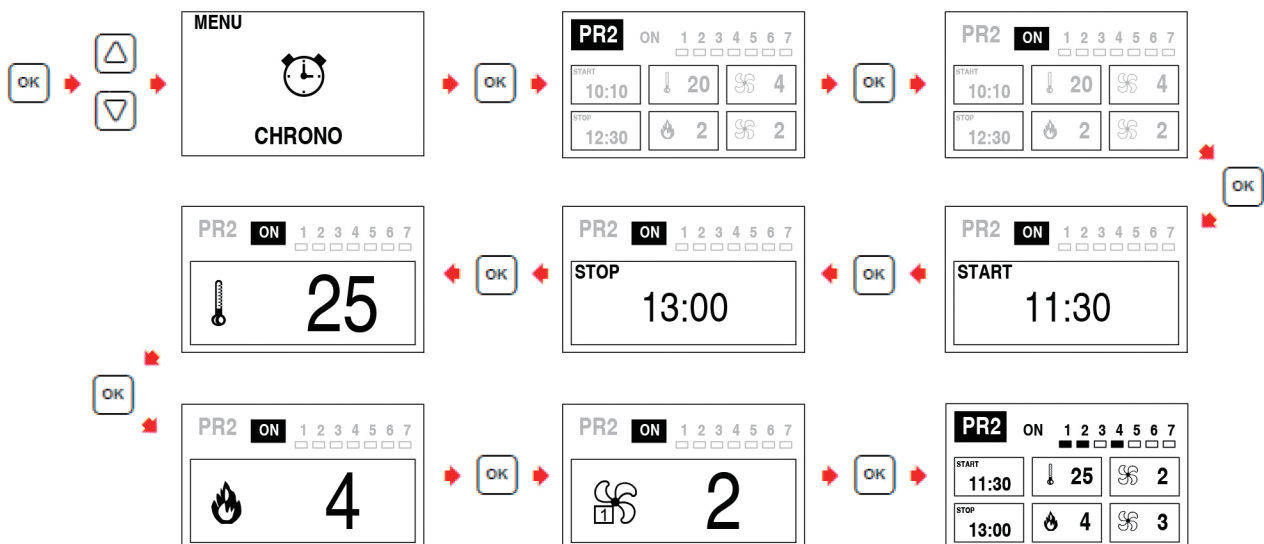
ユーザーが設定した内容に基づき、自動的にストーブが運転・停止する機能です。タイマー設定は6パターンのバリエーションを設定することができます。

- ※混乱を避けるため、1つ1つのパターンの稼働日時が重ならないよう設定することをすすめます。
- ※タイマー設定中も、手動操作で出力や室温設定を変更することは可能です。
- ※タイマーの設定時間が重複した場合は、常に最初に設定したパターンが有効となります。
- ※タイマー設定は、現在時刻を設定していない場合使用することができません。
- ※エネルギーセービング機能との併用が可能です。タイマー機能で設定した時間でストーブは作動・停止を行ないませんが、エネルギーセービング機能による上限温度・下限温度でもストーブは作動・停止を行ないます。



- ① リモコンの「OK」ボタンを押し、「▲」「▼」ボタンで「CHRONO」を選択し「OK」ボタンを押します。
- ② 「▲」「▼」ボタンで設定・編集したいプログラムを選択し「OK」ボタンを押します。
- ③ 「▲」「▼」ボタンでタイマー設定を作動する場合は「ON」、使用しない場合は「OFF」を選択し「OK」ボタンを押します。
- ④ ディスプレイに「START 00:00」と表示されたら、「▲」「▼」ボタンで10分単位で運転開始時間を選択し「OK」ボタンを押します。
- ⑤ ディスプレイに「STOP 00:00」と表示されたら、「▲」「▼」ボタンで10分単位で運転開始時間を選択し「OK」ボタンを押します。
- ⑥ ディスプレイに と表示されたら、「▲」「▼」ボタンで希望の室温を選択し「OK」ボタンを押します。
- ⑦ ディスプレイに と表示されたら、「▲」「▼」ボタンで希望の出力 (火力) を選択し「OK」ボタンを押します。
- ⑧ ディスプレイに と表示されたら、「▲」「▼」ボタンで希望の送風ファンの風力を選択し「OK」ボタンを押します。
- ⑨ ディスプレイ右上にある「1 (日曜日)」にカーソルが合うので、「▲」「▼」ボタンで作動させる場合は「■」を選択し「OK」ボタンを押します。「OK」ボタンを押すたびに曜日が切り替わり、「▲」「▼」ボタンで作動の有無を設定できます。
- ⑩ 全ての設定が完了すると、②の画面に戻ります。他のプログラムを設定・編集する場合は②~⑧を繰り返してください。

※①~②設定中に「ESC」ボタンを押すとメニュー画面に戻り、③~⑨設定中に「ESC」ボタンを押すと②に戻ります。



【MULTI COMFORT】 室温感知センサーの選択

室温感知センサーは、リモコン・ストーブ本体どちらにも内蔵されており、リモコン・ストーブ本体どちらの室温感知センサーを基準に室温を計測するか選ぶことができます。

- ① 「OK」 ボタンを押し、「▲」「▼」 ボタンで「MULTI COMFORT」 を選択して「OK」 ボタンを押します。

ストーブ本体に内蔵されている室温感知センサーで計測する場合

- ② 「▲」「▼」 ボタンで「STOVE」 を選択し「OK」 ボタンを押します。

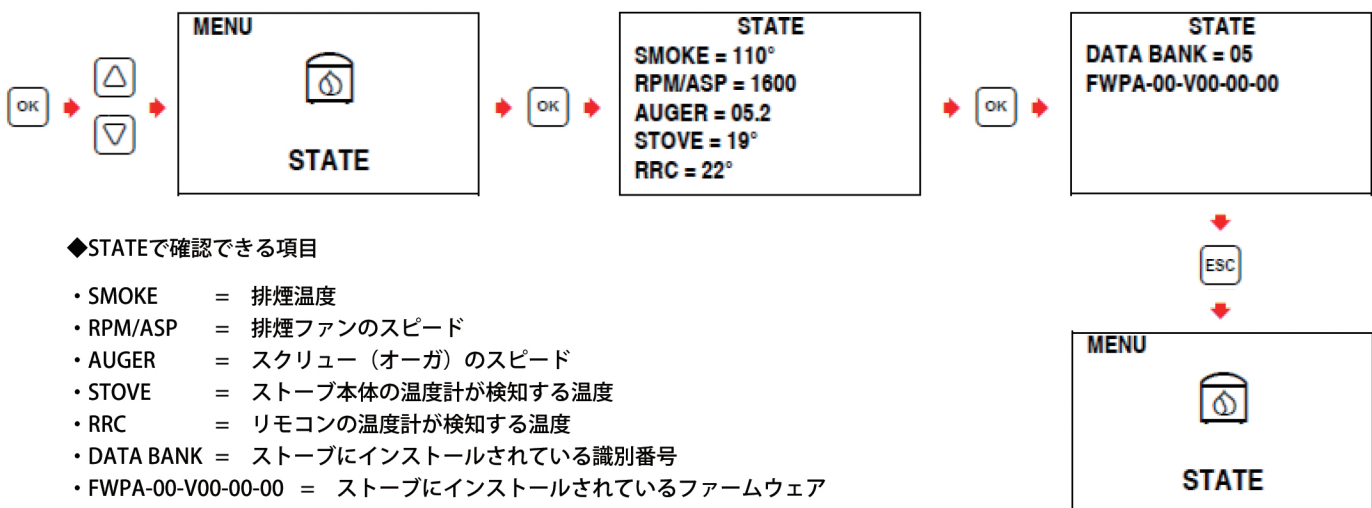
リモコンに内蔵されている室温感知センサーで計測する場合

- ② 「▲」「▼」 ボタンで「RRC」 を選択し「OK」 ボタンを押します。

【STATE】 ストーブの状態確認

現在のストーブの状態を確認することができます。

- ① リモコンの「OK」 ボタンを押し、「▲」「▼」 ボタンで「STATE」 の画面を選択し「OK」 ボタンを押します。
- ② 「ESC」 ボタンで「STATE」 の画面に戻ります。



【BEEP】 受信音の設定

リモコンから送信した内容をストーブ本体が受信した際に鳴る音を設定・解除できます。



- ① 「OK」 ボタンを押し「▲」「▼」 ボタンで「BEEP」 を選択し「OK」 ボタンを押します。
- ② 「▲」「▼」 ボタンで「ON」または「OFF」 を選択し「OK」 ボタンを押します。



【ENERGY SAVING】 エナジーセービングの設定


エナジーセービングとは、ユーザーが設定した任意の室温を保つためストーブが自動運転を行いません。自動的に運転・停止する事で暖めすぎを防ぎ、燃料の消費を節約する機能です。ユーザーが設定した温度に対し、±3℃の範囲でストーブが稼動する上限・下限の温度を自由に設定することができます。ストーブは、設定された上限・下限の温度を境界として運転・停止を繰り返します。

※エナジーセービングとタイマー機能は併用が可能です。タイマー機能で設定した時間でストーブは作動・停止を行いますが、エナジーセービング機能による上限温度・下限温度でもストーブは作動・停止を行いません。

エナジーセービングのサイクル

- ・ユーザーが予め設定した室温をMULTICOMFORTで選択した温度感知センサーが感知すると、出力は自動的にP1に下がり、リモコンに「OK」が表示されます。
- ・出力P1で運転中に設定した上限温度に達した場合、ディスプレイに「ENERGY OK」が表示されシャットダウンモードに入ります。
 - ※エナジーセービングの設定時に下限温度（START）で「」を選択した場合、シャットダウンしストーブが停止すると、ストーブは自動で再運転を行わずそのまま停止した状態となります。
 - ※エナジーセービングの設定時に下限温度（START）を「-1~3」のいずれかを選択していた場合、シャットダウン後ディスプレイは「OFF E」が表示され、ストーブが停止します。室温が設定した下限温度を下回るとストーブが再運転します。
- ・エナジーセービングでストーブを運転しているときは、ディスプレイは「LEVEL ENS P●」と表示され、●は現在の出力が表示されます。
- ・エナジーセービングはタイマー設定と併用が可能です。その場合は常にタイマーの設定条件が優先されます。
- ・エナジーセービングの設定時に上限温度（STOP）で「」を選択した場合、設定された室温に達すると、シャットダウンに移行せず出力P1の状態での運転を続けます。

- ① リモコンの「OK」ボタンを押し、「▲」「▼」ボタンで「ENERGY SAVING」を選択し「OK」ボタンを押します。
- ② ディスプレイに「ENERGY SAVING STOP +●℃」と表示されたら、「▲」「▼」ボタンでストーブが停止する上限温度を「」または「+1° ~ +3°」のいずれかを選択し「OK」ボタンを押します。
- ③ ディスプレイに「ENERGY SAVING START -●℃」と表示されたら、「▲」「▼」ボタンでストーブが運転を開始する下限温度を「」または「-1° ~ -3°」のいずれかを選択し、「OK」ボタンを押します。

※エナジーセービングを使用しない場合は、START・STOP共に「」を選択します。



【エラー：E1】 排煙センサーの異常

原因 煙突に繋がる排気管に接続されたセンサーが常に排煙の圧力をチェックし、安全に運転されるようプログラムでコントロールしています。煙突内の汚れの堆積、メンテナンス不備、強風などの悪天候などによって安全な運転が維持できない場合、プレッシャースイッチが作動しストーブがシャットダウンしてディスプレイに「E1」が表示され警告音が鳴ります。

原因 ドアには開閉を感知するセンサーが付いており、ドアが正しく閉められているか常に監視しています。センサーが異常を感知し安全装置が作動すると、自動的にペレットの供給を止めシャットダウンし、ディスプレイに「E1」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 炉内のペレットが完全に燃え尽き、排煙ファンが停止するのを待ちます。
- ③ ストーブが冷えてから炉内を掃除しドアを閉めます。
- ④ 「電源」 ボタンを押すと「E1」表示が消えてストーブが再スタートします。

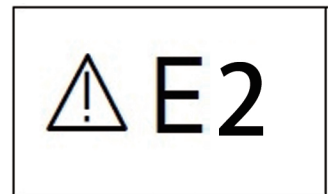


【エラー：E2】 プレッシャースイッチの異常

原因 プレッシャースイッチはストーブが正しい順序を経て運転しているか監視するシステムです。プレッシャースイッチの異常があるとディスプレイに「E2」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 設置販売店へご相談ください。

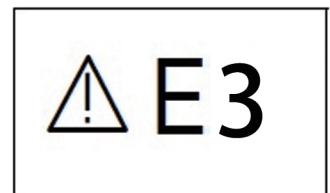


【エラー：E3】 ペレットタンク温度の異常

原因 ペレットタンク内の温度を監視することで、タンク内の過度な温度上昇による事故を防ぎます。センサーがタンク内の温度異常を感知すると、ペレットの供給を止めシャットダウンし、ディスプレイに「E3」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 炉内のペレットが完全に燃え尽き、排煙ファンが停止するのを待ちます。
- ③ ストーブが冷えてから炉内を掃除しドアを閉めます。
- ④ 「電源」 ボタンを押すと「E3」表示が消えてストーブが再スタートします。



【エラー：E4】 排煙温度の異常

原因 センサーが排煙温度の異常を感知すると、ペレットの供給を止めシャットダウンし、ディスプレイに「E4」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 設置販売店へご相談ください。

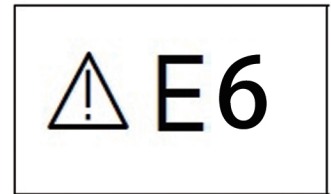


【エラー：E6】オーガ（スクリュ）の不具合

原因 ペレットを送り込むオーガの動きに異常が生じると、ディスプレイに「E6」と表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 設置販売店へご相談ください。



【エラー：E7】排煙温度が低すぎる

原因① 排煙温度がストーブを運転するための下限温度を下回ると、ディスプレイに「E7」が表示され警告音が鳴ります。

原因② ストーブ運転中にタンク内のペレット残量が完全に空になってしまうと、ディスプレイに「E7」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
 - ② 炉内のペレットが完全に燃え尽き、排煙ファンが停止するのを待ちます。
 - ③ ストーブが冷えてから炉内を掃除しドアを閉めます。
 - ④ ペレット残量を確認し、必要な場合は補充してください。
 - ⑤ 「電源」 ボタンを押すと「E7」表示が消えてストーブが再スタートします。
- ※問題が解決しない場合は販売店へご相談ください。

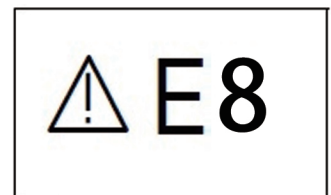


【エラー：E8】排煙温度センサーの接続不良

原因 排煙温度センサーの接続に異常があると、ディスプレイに「E8」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 設置販売店へご相談ください。



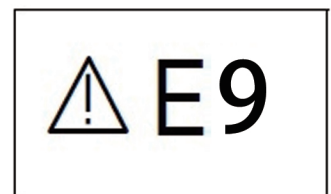
【エラー：E9】着火不良

原因① スタートフェーズ開始後、排煙温度が上がらず着火が確認できない場合、ディスプレイに「E9」が表示され警告音が鳴ります。

原因② 燃料が供給されず着火が確認できない場合、ディスプレイに「E9」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 炉内のペレットが完全に燃え尽き、排煙ファンが停止するのを待ちます。
- ③ ストーブが冷えてから炉内を掃除しドアを閉めます。
- ④ 「電源」 ボタンを押すと「E9」表示が消えてストーブが再スタートします。



【エラー：E10】 室温センサーの接続不良

原因 ストープ背面に設置されている室温センサーが外れたり機能に異常があると、ディスプレイに「E10」が表示され警告音が鳴ります。ストーブはそのまま運転を続けますが、室温の計測ができないためユーザーが設定した室温設定は無効となります。

◆解決方法

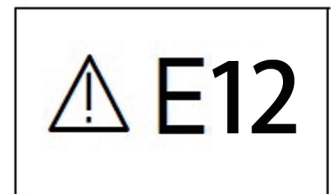
- ① 室温センサーの接続を確認し、正しい位置に直してください。
- ② 室温センサーの接続が復活すると、表示は元に戻ります。

**【エラー：E12】 電気系統の接続不良**

原因 ストープ本体の電気系統の接続に異常があると、ディスプレイに「E12」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

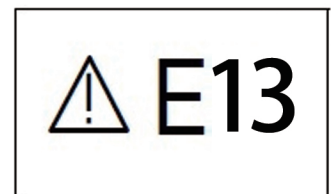
- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 設置販売店へご相談ください。

**【エラー：E13】 タンクの蓋が閉まっていない**

原因 タンクの蓋が開いたままになっていると、ディスプレイに「E13」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

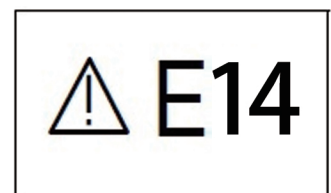
- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 炉内のペレットが完全に燃え尽き、排煙ファンが停止するのを待ちます。
- ③ ストープが冷えてから炉内を掃除しドアを閉めます。
- ④ タンクの蓋が閉じているのを確認してください。
- ⑤ 「電源」 ボタンを押すと「E13」表示が消えてストーブが再スタートします。

**【エラー：E14】 着火不良**

原因 スタートフェーズ開始後、一定時間内に排煙温度の上昇が確認できないと、ディスプレイに「E14」が表示され警告音が鳴ります。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 炉内のペレットが完全に燃え尽き、排煙ファンが停止するのを待ちます。
- ③ ストープが冷えてから炉内を掃除しドアを閉めます。
- ④ ペレット残量を確認し、必要な場合は補充してください。
- ⑤ 「電源」 ボタンを押すと「E7」表示が消えてストーブが再スタートします。



【エラー：E19】 その他接触・接続不良

原因 センサーや通信が何らかの原因で通電していない（通信されていない）状態です。

◆解決方法

- ① 「電源」 ボタンを長押ししてストーブをシャットダウンすると警告音が止まります。
- ② 設置販売店へご相談ください。



【WAIT COOLING】 ストーブを冷やす

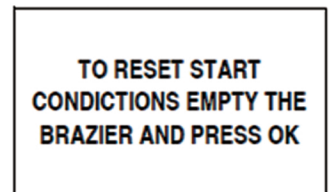
シャットダウンフェーズ中にストーブを冷やす際に表示されます。この表示が出ている間はストーブの再スタートはできません。

※11ページ「ストーブの停止と再スタート」の項目を参照してください。



【EMPTY BRAZIER】 炉内の清掃

シャットダウン後、ストーブが冷えた後に表示されます。炉内をきれいに掃除しドアを閉め「電源」ボタンを押すとディスプレイに「BRAZIER EMPTIED NO」と表示されます。「▲」「▼」ボタンで「BRAZIER EMPTIED YES」を選択し「電源」ボタンを押すとディスプレイが「OFF」表示になり、ストーブの再スタートが可能になります。



【SERVICE】 メンテナンスの警告

ストーブのメンテナンスを促すため、2000時間運転するたびに表示されます。この表示が出たら炉内や排煙ファン・煙突など全て点検し、メンテナンスを行なって下さい。

※「SERVICE」の表示を消去する場合は設置販売店へご連絡ください。



リモコンにカギのマークが表示される

リモコンがキーロック（チャイルドロック）されています。「ESC」ボタンを10秒ほど長押しすると解除することができます。

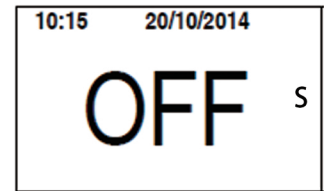
※7ページ「リモコンの操作」の項目を参照してください。



リモコンに「S」と表示され、メニュー画面に入れない

リモコンがシンプル操作モードになっています。「電源」ボタンと「ESC」ボタンを同時に10秒ほど長押しすると、解除されます。

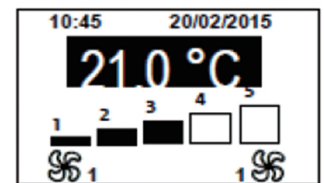
※8ページの「リモコンのシンプル操作モードの設定」の項目を参照してください。



リモコンの室温表示の背景が黒くなっている

ユーザーが設定した室温に達すると黒背景・白文字に変わります。

※10ページの「室温を変更する」の項目を参照してください。



【CLEANING GRATE】と表示されている

グレート（燃焼皿）の自動クリーニングを行なっています。クリーニングが完了すると、ストーブは運転を再開します。

※10ページの「ストーブの自動クリーニング」の項目を参照してください。

【LOW FUEL】と表示されている

タンク内のペレット残量が少なくなっています。ペレットを補充してください。

※10ページの「ペレットの残量表示」の項目を参照してください。

【PELLET DEPLETED】と表示されている

タンク内のペレットが完全に無くなってしまったため、ペレットを補充してください。

※10ページの「ペレットの残量表示」の項目を参照してください。

【POWER FAILURE】と表示されている

停電などで一時的に電力が遮断された状態から電源が復旧した際に表示されます。電源の復旧にかかった時間により対応が異なります。

※12ページの「運転中の停電によるシャットダウン」の項目を参照してください。

メンテナンスの重要性

ストーブは毎日・毎週・毎月・シーズン毎のメンテナンスが必要です。メンテナンスを適切な頻度で実施することで、効率の良い運転が維持されストーブの損傷を防ぐことができます。メンテナンス不備による損傷・故障は保証の対象外となりますのでご注意ください。

※メンテナンスをする際は、ストーブが停止し冷えた状態で、必ず電源コードを抜いて行って下さい。

※ストーブの機器内部に関わる電子部品は分解しないで下さい。

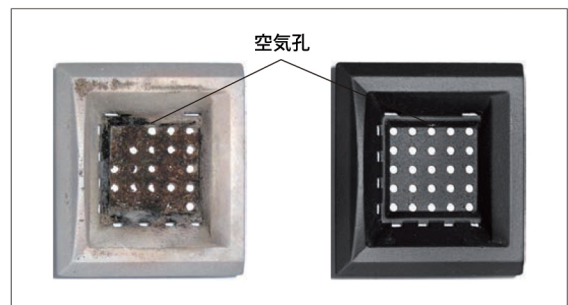
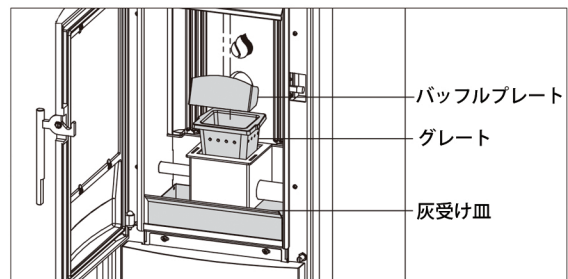
※メンテナンスの頻度はストーブの使用状況・ペレットの品質により変わります。

炉内の掃除

炉内は、着火前など毎日掃除してください。

- ① バッフルプレートを外し、グレーテを持ち上げて下さい。この際、周辺部品にぶつけて損傷しないよう十分注意して下さい。
- ② グレーテの灰や堆積物を取り除き、空気孔が塞がれていないか確認して下さい。空気孔はペレットの燃焼用空気を供給する役割も兼ねていますので、きれいに保つことが重要です。
- ③ 炉内周辺を掃除して下さい。
- ④ グレーテ、バッフルプレートの順に元に戻します。

※着火する前に、各部品が正しい位置にあることを確認して下さい。

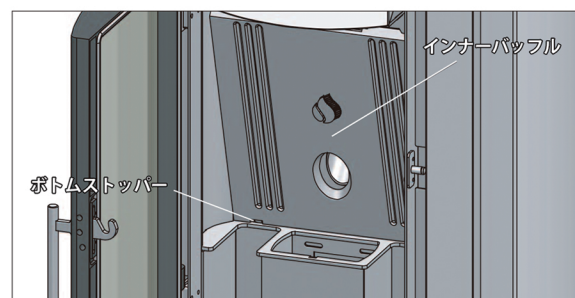
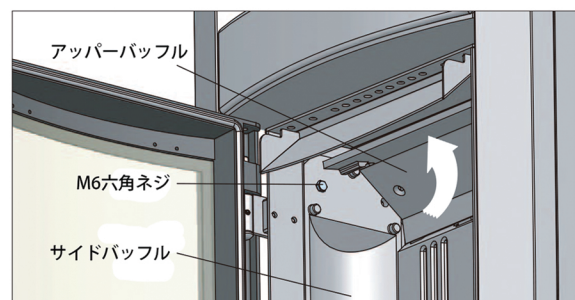


月に1度の掃除

月に1度、燃焼室の掃除をして下さい。

- ① グレーテと灰受け皿を取り外して下さい。
- ② M6六角ネジを緩めてください。
※取り外さないよう注意してください。
- ③ アッパーバッフルを持ち上げて取り外して下さい。
- ④ インナーバッフルを傾けるように取り外して下さい。
- ⑤ アッパーバッフルを元の位置に戻します。
- ⑥ 掃除機で燃焼室内をきれいに掃除して下さい。
- ⑦ 取り外した部品を逆の手順で元に戻して下さい。
※インナーバッフルを戻す際は、下部の突起がボトムストッパーにしっかり入り込んでいることを確認して下さい。

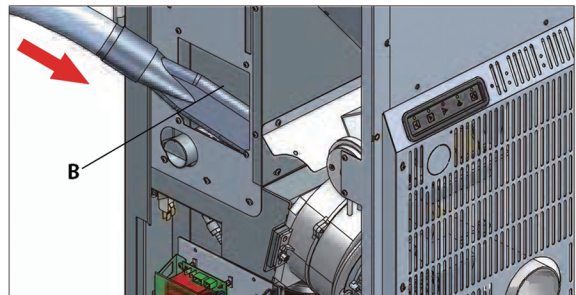
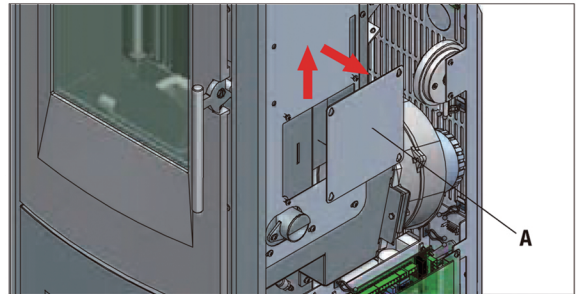
上記の他、排煙管や煙突も状況を見て掃除してください。



3ヶ月に1度の掃除

3ヶ月に1度、排煙ファンや周辺部品のメンテナンスをして下さい。

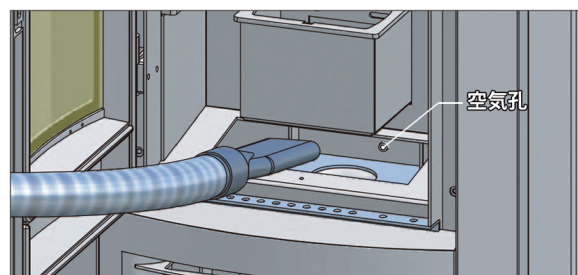
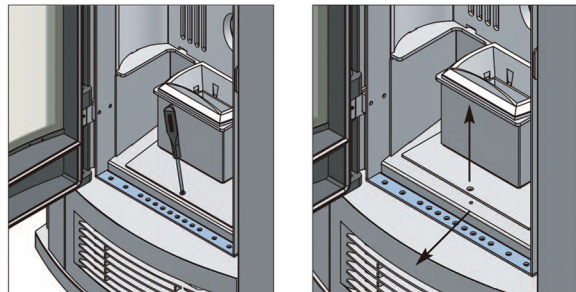
- ① ストープの外装パネルを外します。
- ② 排煙ファンのカバー (A) を外します。
- ③ 掃除機などで周辺 (B) に堆積した灰や汚れをきれいに掃除してください。
- ④ (A) を元に戻し、きちんと密閉が維持できているか確認し、必要であればガスケットを交換してください。



1年に1度の掃除

1年に1度、燃焼室の掃除をして下さい。

- ① 燃焼室カバーのネジを外し、カバーを若干持ち上げながら手前に引きながら外して下さい。
- ② 掃除機などで燃焼室にたまった灰や堆積物をきれいに掃除して下さい。
- ③ 燃焼室左側にある空気孔を確認し、詰まりがないか確認して下さい。
- ④ ガスケットを確認し、必要に応じて交換して下さい。



リモコンのバッテリー交換

リモコンの裏のカバーをスライドすると、電池を交換することができます。電池は単4/1.5Vのものを使用して下さい。電池を交換すると、リモコンが自動的にストーブの信号を受信し同期します。

灰受け皿の掃除

灰受け皿は、灰があふれて周辺に堆積することがないように随時確認し、灰を捨ててください。灰を捨てる際は、きちんと蓋のできる金属製の容器に入れ、容器は不燃性の床の上で保管してください。灰は火が鎮火し冷えてから捨てるようにしてください。

外装パネルの掃除

外装パネルは中性洗剤で洗うことができます。柔らかい布で汚れやホコリを拭き取り、セラミック（陶磁器）用洗剤を使用してください。
※パネルが熱い状態で冷水をかけたり、水に浸さないで下さい。急冷はパネルが割れる原因となります。
※パネルに強い衝撃を加えないよう取扱いには十分注意して下さい。

エナメル金属パーツの掃除

柔らかい湿った布で汚れを拭き取って下さい。
※金属パーツには、アルコール・ソルベント（溶剤）・アセトン・脱脂材・研磨剤などは絶対に使用しないで下さい。

ドアガラスの掃除

柔らかな布で汚れを拭き取って下さい。汚れが強い場合は、アンモニアをベースとしたクリーナーを使用してください。ソルベント（溶剤）のような腐食性の薬品や研磨剤が入っているものは使用しないで下さい。
※ガラスのクリーニングの際は、必ずストーブが冷えた状態で行なって下さい。
※低温時や水分の多いペレットを使用すると、ガラスが煤で汚れることがありますが、高火力でストーブを運転しているとある程度汚れが飛びます。タールなどの落ちにくい汚れは放置すると取れにくくなるため、その都度こまめに掃除して頂くことをおすすめします。

ドアガラスの交換

ガラスには、厚み4mm・耐熱750℃の頑強な耐熱コーティングを施した特殊ガラスを使用しています。頑強な構造になっていますが、ドアを強く閉めたり激しい衝撃を加えると破損する可能性もありますので、十分注意して下さい。
万一ガラスを破損した場合は、ピアツェッタ純正部品を使用し以下の手順で交換して下さい。

- ① ドアを本体から外し、平らな場所に置きます。
- ② ドア内側のガラスを止めているネジを外します。
- ③ 注意しながらガラスフレームとガラスを取り外します。
- ④ ガasketが外れたりほつれたりした場合は交換して下さい。
- ⑤ 新しいガラス・ガラスフレームの順に取り付け、ネジを締めます。ネジは締めすぎるとガラスの破損の原因となりますので、締めすぎに十分注意して下さい。
- ⑥ ドアを本体に戻します。

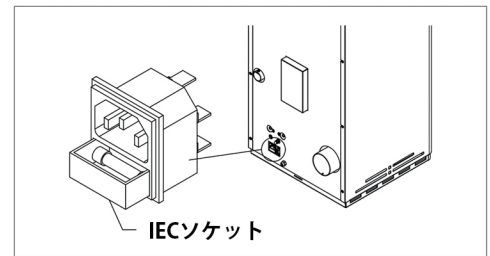
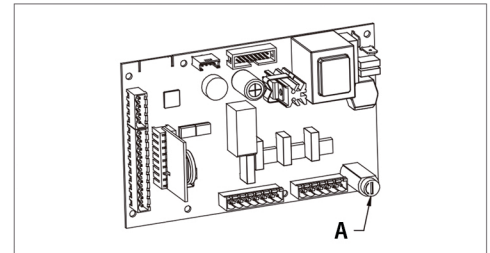
ヒューズの交換

電子基板

カートリッジ・ヒューズ (A) を基板から外し、交換して下さい。ヒューズは F4AH250V を使用します。

IECソケット

ストーブ背面のヒューズ部分をソケットごと抜き、ケース内の引き出しにあるヒューズを交換して下さい。
ヒューズは F4AH250V を使用します。



シーズン終了時の掃除

オフシーズンになり、しばらくストーブを運転しないときは、下記の通り掃除を行なって下さい。

- ① ストーブの電源を抜きます。
- ② タンク、スクリーン内のペレットを全て取り除きます。
- ③ 燃焼室内部をきれいに掃除してください。個々のパーツを傷めないよう十分注意して下さい。
※特にしつこい汚れは金属ブラシなどを使用して取り除きます。必要であればスプレーで再塗装して下さい。
- ④ 排煙ファンや煙突を掃除して下さい。
- ⑤ ストーブ背面も確認し、周囲にホコリがたまらないよう掃除して下さい。
- ⑥ リモコンの電池を取り出し、次回使用時まで保管して下さい。

※ストーブ本体は鋳鉄や銅板でできています。材質の性質上、オフシーズン中に錆が発生することがありますが、異常ではありません。

性能に影響を与えることはありませんが、錆が気になる場合は紙やすりや金属ブラシなどを使用して取り除いて下さい。

シーズン前の準備

シーズンのはじめなど長期間未使用状態にあったストーブを使用する際は、メンテナンスの項目を確認・実施し、ストーブが正しく作動することを確認して下さい。



PIAZZETTA日本総輸入元

GREENHOOD (グリーンフード)

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-3 1F
TEL 03-6261-3884 / FAX 03-6261-3885

WOODHOOD (ウッドフード)

〒031-0031 青森県八戸市大字番町1-1
TEL 0178-43-3061 / FAX 0178-43-3037